

46th YEAR

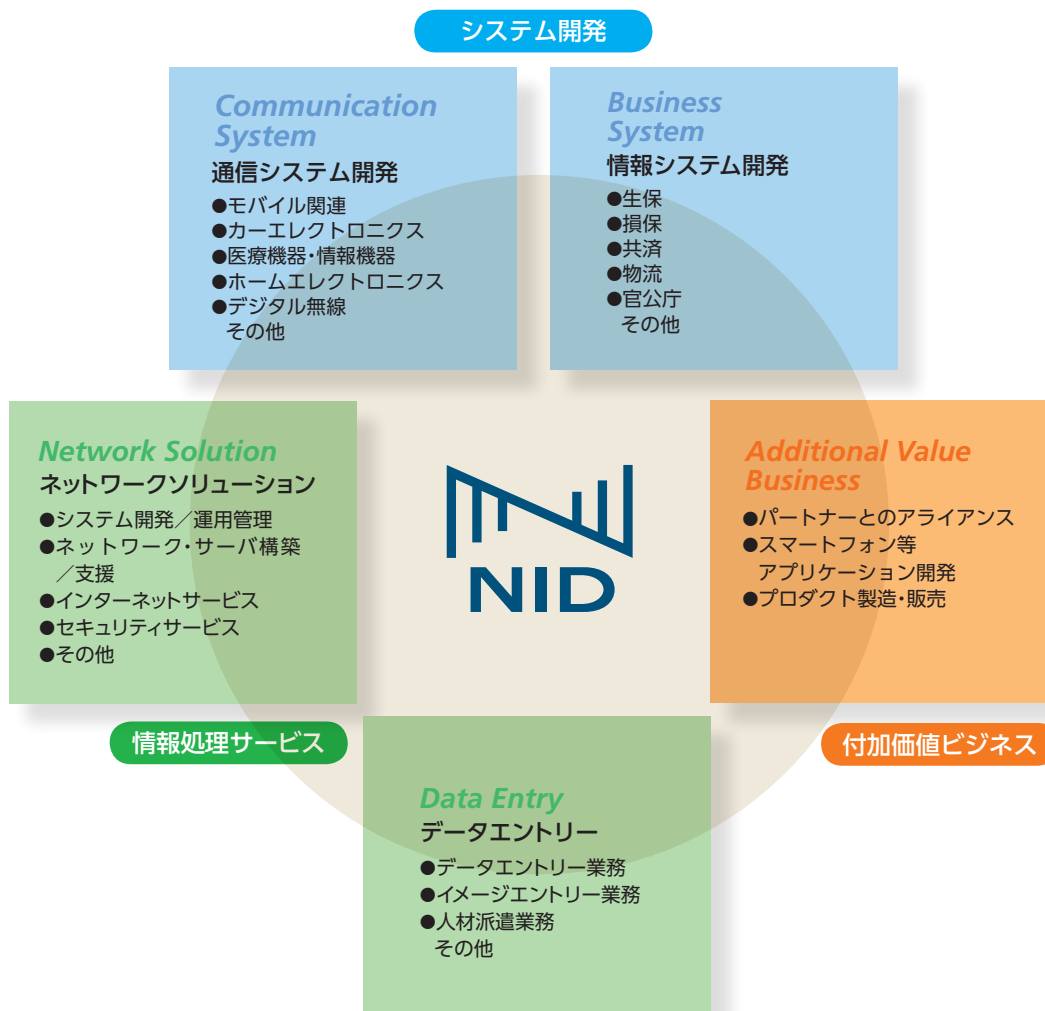
Nippon Information Development Co.,Ltd.

Uビジネス時代に新たなステージで挑戦し続けるNID

ITの発展を根底から支える技術力とノウハウ。

NIDでは、4つの事業+付加価値ビジネスで最先端の技術を提供しています。

当社グループは、ヒューマンウェアをコンセプトに、最先端の組み込み技術をはじめ、3つの領域・5つの分野でソリューションを展開。
お客様の業務効率化と生産性の向上に貢献できるシステムの開発・構築から運用に至るまで、幅広い分野でサービスを提供しています。





代表取締役社長 鈴木 清司

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループに格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社グループ2012年度(平成24年度第46期)の連結決算概況をご報告申し上げます。

政権交代を機に景気回復への期待感が一段と高まる中、情報サービス業界においては、クラウドコンピューティングやスマートフォン、タブレット端末に関連する分野には動きが見られますが、企業のIT投資については抑制傾向が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、現場営業を徹底、「とる営業」から「生み出す営業」への転換を進め、受注獲得に注力いたしました。付加価値ビジネスへも継続して取り組み、当社グループの技術を活かしつつ、事業領域の拡大に努めました。

また、昨年8月には本社を移転し各事業拠点を集約することで、経営資源の共有、業務効率化を図るとともに、プロジェクトごとの専用ルーム(クリーンルーム)を新設し、情報セキュリティの強化に努めました。

その結果、売上高15,531百万円(前期比4.8%増)、営業利益1,011百万円(同16.2%増)、経常利益1,090百万円(同21.2%増)、当期純利益585百万円(同78.1%増)となりました。

今後もバランス経営による安定成長を継続しながら、新たな分野にも挑戦してまいりますので、株主の皆様におかれましては、一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



市場への柔軟な対応と顧客満足度の
最大化によって、持続的成長を
目指します。

代表取締役社長
鈴木 清司

代表取締役社長

President

基幹3事業の善戦によって増収増益を達成しました。

2013年3月期(当期)は、震災復興需要を背景に緩やかに回復しつつありましたが、依然として景気の先行きは不透明なまま推移しました。特に前半は国内の製造業を中心に減速した状態が長引き、IT業界にとっても厳しい事業環境が続きました。後半になって多少回復の兆しが見え始めたことと、当社のバランス経営によって、グループ全体で増収増益を達成することができました。

これは、情報システム事業において損保・生保・共済が堅調に推移したこととネットワークソリューション事業での更なるコスト管理が奏功し、収益が予想を上回ったことが大きく貢献しています。一方、通信システム事業は、スマートフォンが好調だったものの、事業環境は厳しいままでした。またNID東北は、震災の影響と不採算案件により赤字となったほか、NID・ISとNID・IEも対前期比では苦戦を強いら

れました。付加価値ビジネスにおいては、土地改良区向け複式簿記会計システム「水土里ネット会計」の販売が堅調だったほか、独自開発プロジェクトの「Nstylist(Nスタイリスト)」などがドアノックツールとして機能し、累計で約8億円の新規案件を呼び込むことができました。

また昨年8月には、東京・中央区の「晴海アイランドトリトンスクエア」に本社および各事業所を移転・統合しましたが、ワンフロアに各事業部が並ぶことにより、部門間の連携が飛躍的に向上しました。経営的な意思決定もさらに迅速になり、移転・統合メリットは計り知れません。さらに新オフィスには、IT事業会社としては珍しいクリーンルームを18室設置しました。独立した運営による高セキュアな環境がお客様から多大な評価を受けており、当社の新たな強みとなっています。

市場環境の変化を捉え、着実に安定成長させていきます。

当社グループの業績は、40周年だった2008年3月期をピークに小刻みながら一進一退を繰り返してきましたが、ここに来て以前の勢いを取り戻しつつあります。今期は、日本国内の電機メーカーをはじめとする製造業ではまだ厳しい状況が続くと予想されますが、アベノミクスへの期待も加わり、当期よりも改善する見通しです。

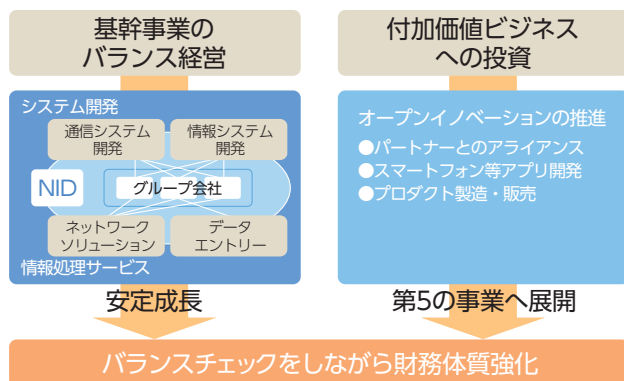
また当社を取り巻くIT業界の市場環境は、本格的なユビキタス時代を迎えつつあり、スマートフォンやタブレットなどのビジネス活用が伸長するとともに、ビッグデータ活用が本格化する中、自動車のインテリジェント化・ネットワーク化も加速しています。さらに医療分野においても、飛躍的なIT化の波が押し寄せています。こうした変化を常に捉え続け、自社グループの事業をフィットさせていくことで持続的成長は可能だと考えます。

既にクラウド化のトレンドにより、通信システム事業

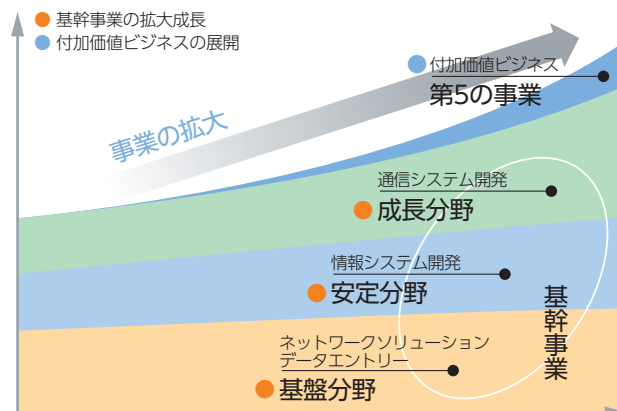
部と情報システム事業部、ネットワークソリューション事業部間が連携して開発を行うことが始まりつつあります。今後は自社グループ内での柔軟かつ有機的な連携を図りながら、技術力と品質、人間力に裏付けられたサービスを通して顧客満足度の最大化を図ってまいります。

経営面においては、強力な基幹事業を中心としたバランス経営を徹底すると同時に、付加価値ビジネスにおけるオープンイノベーションを加速させ、安定と成長の両立を目指します。またキャッシュ・フロー重視によって、財務体質の強化を実現させます。

利益については、株主の皆様に対して安定的な配当を行う方針を掲げており、利益水準を勘案しつつ積極的な利益還元を行うことを目指します。



● 今後の事業展開





取締役
通信システム事業部長

石井 廣

コアコンピタンスの「無線通信」を核に伸長4分野に注力します。

通信システム開発

Communication System

通信システム事業部を取り巻く市場環境は、国内メーカーの長引く不振で厳しい状況が続いています。しかし、中でも伸長分野は存在し、従来より注力してきたモバイル、自動車、医療に加え、2013年度はさらに公共事業分野を加えた4分野にフォーカスしていきます。

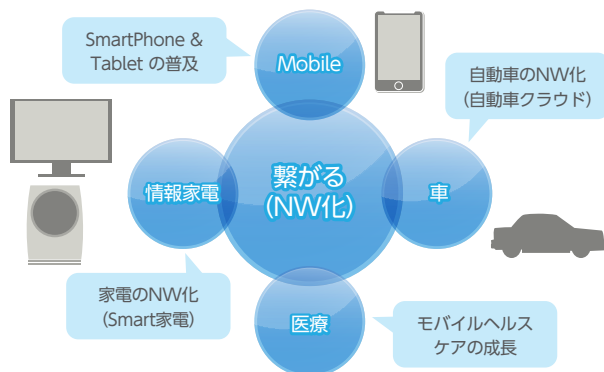
公共事業分野は当事業部のルーツ的な事業領域であり、長く防災無線や緊急車両無線システムなどの無線通信を手掛けてきました。震災以降、この領域での再構築が急速に進んでおり、メーカーと協業して積極的な展開を図ってまいります。またモバイル分野では、スマートTVと呼ばれる新たな視聴システムも手掛け始め、スマホ&タブレット用ア

プリ、Wi-Fiスティック用組み込みソフト、サーバシステムを開発しています。

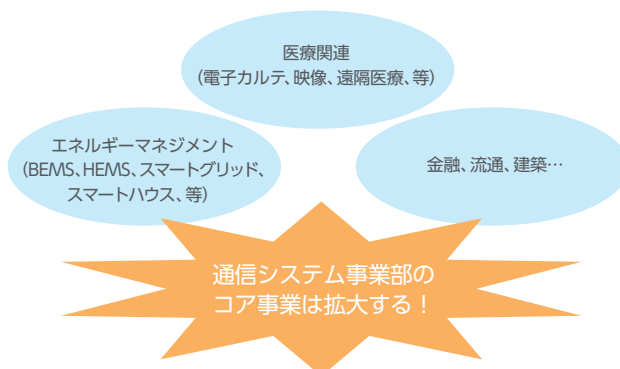
また医療分野は20年以上の実績があり、人工心肺やポリグラフ用組み込みソフトを開発しており、当社の開発プロセスと品質管理の優位性が高く評価されています。自動車分野での実績は10年弱ですが、車種ごとに搭載する機能の上流設計を顧客メーカーの立場で担当しています。

すべてがクラウドに繋がる社会が形成されつつある今、当事業部のコアコンピタンスである無線通信技術を核に人と情報を繋ぐソリューションを幅広く提供していきます。

KeyWordは『繋がる』



限らない可能性





大型案件への取り組みを着実に前進させ、
事業基盤をより盤石なものへ進化させます。

情報システム事業部長
鈴木 哲雄

情報システム開発

Business System

情報システム事業部では、生命保険や損害保険をはじめとする金融系の基幹システムから物流管理などの業務システムに関するソフトウェアの分析から開発、構築、保守までをワンストップで提供しています。

特に生保・損保・共済は当事業部の3本柱であり、NIDグループにとっても安定分野として大きな存在感を発揮しています。直近では損保関連で大規模統合システムの構築案件をはじめ、そのほかにも次期システム構築などの大型案件があり、現在では3年先を見据えた営業活動を展開中です。2013年度においては生損保関連を中心とする基幹システムへの取り組みに注力し、事業をより盤石なものへとしていきたいと考えています。

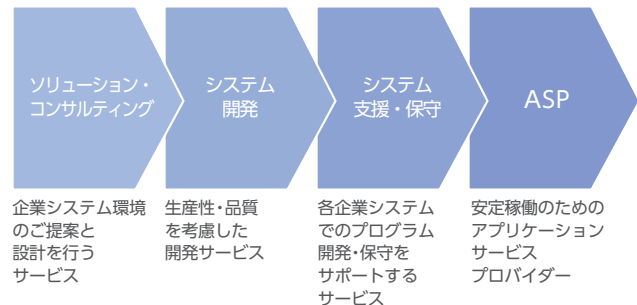
事業分野



またオープン系の事業として、通信キャリア様の案件も活発化しています。この分野においては、当社通信システム事業部との垣根が低くなる傾向にあり、今後の成長分野として注目しています。また本社移転・統合によって、部門間の連携もスムーズになり、既に通信システム事業部ならびにネットワークソリューション事業部との3部門連携による提案も始まっています。

今後も安定分野の深耕による事業基盤の強化を最重要課題と位置づけて邁進するほか、不採算案件の撲滅とともに、事業部間シナジーを活かした営業活動を活発化させていきます。

事業領域





事業環境の変化へ機敏に反応し、事業領域の拡大を目指します。

取締役
ネットワークソリューション事業部長

盛満 敏昭

ネットワークソリューション

Network Solution

昨年度から今年度にかけて、お客様の環境が2つの要素で大きく変動しています。ひとつが組織の再編や統合であり、もうひとつがクラウドや仮想化に代表されるITトレンドの大きな波です。ネットワークソリューション事業部ではこの変化に対応しながら、お客様との信頼関係の強化による顧客満足度の向上と事業領域の拡大による成長を事業方針として掲げています。

我々の強みは、お客様の情報システム部に成り代われる技術とスキルを保有していることで、長年培った業務知識をベースに独自の品質を追求し、顧客満足度の向上を図っ

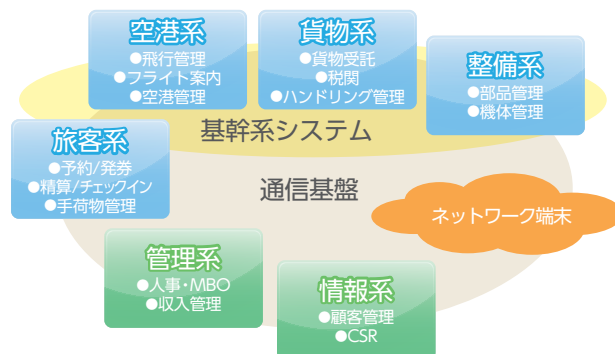
ています。また事業領域の拡大では、データセンターを保有する企業とのパートナーシップを模索し、競合ではなく協業する枠組みの構築を目指しています。さらに本社移転に伴うクリーンルームを最大限に活用し、リモート監視サービスの新規ビジネスを開始しました。既に2社契約しましたが、これをさらに加速させます。

また当社事業部門の連携するケースも増え、企画段階から参画し、システム開発から構築・保守運用までをワンストップで提供することも可能です。今後もお客様のニーズに揺るぎない品質と信頼でお応えしていきます。

サービスメニュー



全日空様運用事例





サービス品質の向上によって、BPOサービスの拡充を図ります。

株式会社NID・IS
取締役事業部長

市川 雅康

データエントリー

Data Entry

データエントリー市場ではお客様の二極化が進み、コストだけを重視する案件はオフショアを選択する場合がありますが、品質とセキュリティを最優先するお客様は当社のような実績と規模のある国内企業を選ば傾向にあります。特に今期は定例作業の大規模案件の入れ替え時期を迎えます。そこで新規案件を早急に軌道に乗せ、収益面での安定化を図りたいと考えています。

当社のデータエントリー業務は、損害保険関連が圧倒的なボリュームを占め、ほかに医療系では健康診断の結果票入力や大学入試関連などで実績があります。特に損害保険

などでは監督官庁が決めた厳しいガイドラインに沿って業務を行う必要があり、当社では設備の整備と人材の育成を徹底しています。

また、一連の事務処理を入口から出口まで一括して委託される事例も増加しています。当社ではBPO*によるトータルなサービス提供を成長戦略として位置づけ、積極的に展開しています。そのほかに、BPOやデータエントリー業務をお客様企業へ出向して行う案件もあり、昨年度は震災の影響により、電力会社への出向業務が業績に大きく寄与しました。

※BPO：ビジネスプロセスアウトソーシングの略で、事務作業などの業務プロセスを一括して専門業者に外部委託すること。



株式会社NID・IS 佐原事業所 (千葉県香取市)

●サービス構成

データ入力
OAオペレータ派遣
BPO (ビジネスプロセスアウトソーシング)

●大容量

最新マシン約100台
大量データ処理
短納期

●高セキュリティ

指紋認証入室管理
監視カメラ設置
専用サーバールーム
耐火設備

データエントリー業務体制
要員計 約120名



既存プロダクトの育成とグローバル市場への挑戦を推進します。

取締役営業本部長
田辺 学

付加価値ビジネス

Additional Value Business

新しい市場を創出できる画期的な技術である「Nstylist」など、当社独自プロダクトはさまざまな方面のお客様から注目を集めています。ここに来てお客様から「Nstylist」を活用したビジネスを展開したいというご要望がいくつかあり、その実現に向けて鋭意邁進しています。

また、土地改良区向け複式簿記会計システムである「水土里ネット会計」は、特定マーケットに特化していることから販売が順調に推移しています。「VALiBO（バリボ）」は顧客数こそ増えているものの、残念ながら想定していた売上まで伸びていません。現在はダウンロード数と参加ブランド

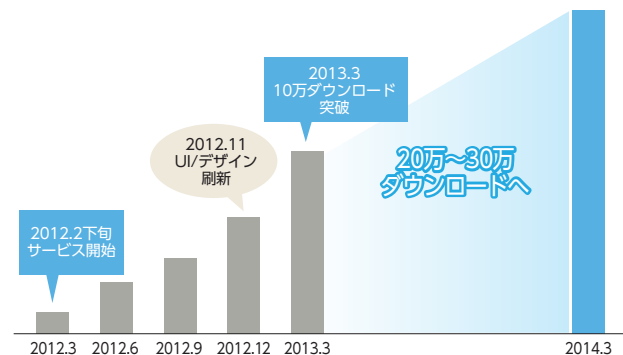
の増加を狙った施策を進め、参加ブランドとともに露出を加速させていくなど、次世代ビジネスモデルへ育成していく所存です。

今後は海外とのアライアンスも進め、グローバル市場を目指したモバイルプロダクトの開発を推進する計画です。加えて2013年度の「第3回スマートフォン＆モバイルEXPO（春）」では「人と情報がつながる」をキーワードに新しいイノベーションへの挑戦をアピール。メーカーとの連携を模索しながらいち早く参画し、モバイルと家電や自動車を繋げる当社の技術を提案していきたいと考えています。

リニューアルした「VALiBO」の画面

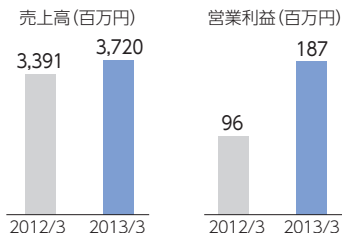


「VALiBO」ダウンロード数の推移



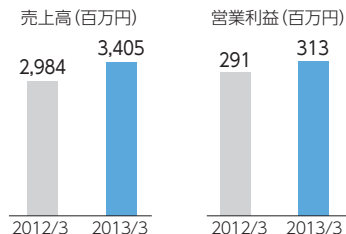
通信システム事業

当事業では、モバイル関連や自動車関連の受注が増加いたしました。また、プロジェクト管理の徹底により、不採算プロジェクトの影響があった前期に比べ利益面の改善を図りました。



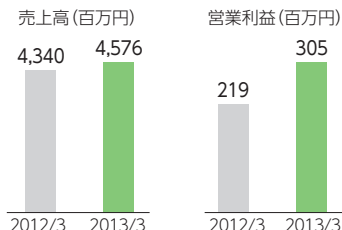
情報システム事業

当事業では、生損保、共済関連や流通、製造業の受注が増加いたしました。



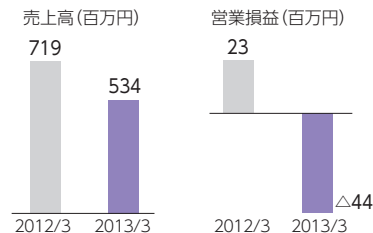
ネットワークソリューション事業

当事業では、官公庁関連の受注は減少いたしました。運輸業や生損保等の主要顧客からの受注が増加いたしました。



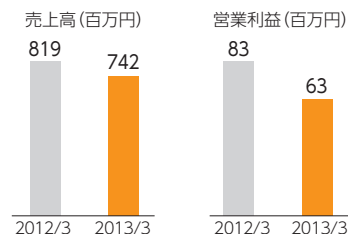
NID東北

当事業では、震災の影響による停滞が依然として継続し、厳しい状況で推移いたしました。また、一部不採算プロジェクトも発生いたしました。



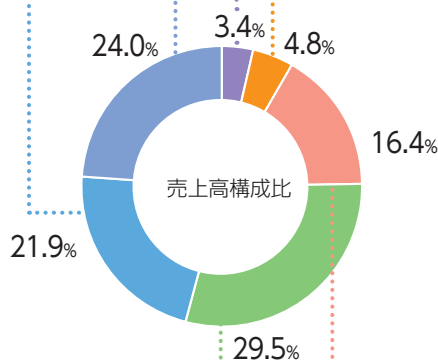
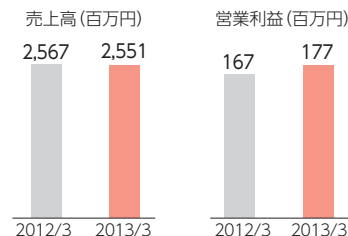
NID・IE

当事業では、官公庁関連の受注が減少いたしました。



NID・IS

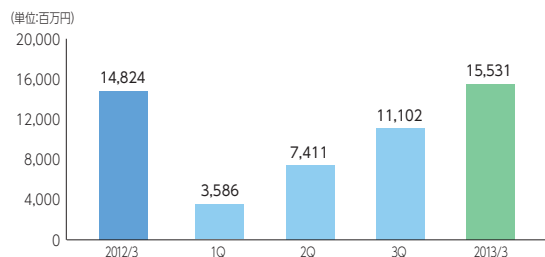
当事業では、データ入力関連の受注は電力関連の顧客を中心に増加いたしました。システム開発の受注は減少いたしました。



財務ハイライト(連結)

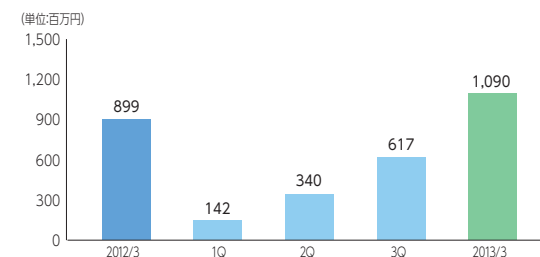
売上高 15,531百万円

当期の売上高は155億3千百万円(前期比4.8%増)となりました。
主な要因は、震災に起因したNID東北の不振がありました。通信システム事業と情報システム事業、ネットワークソリューション事業の受注が好調に推移したことによるものです。



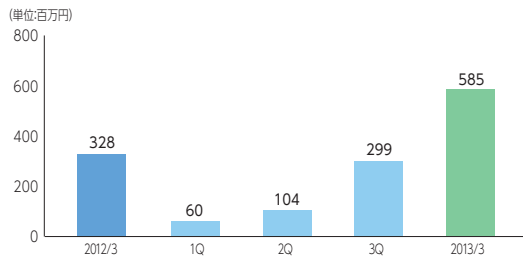
経常利益 1,090百万円

当期の経常利益は10億9千万円(前期比21.2%増)となりました。
主な要因は、通信システム事業と情報システム事業、ネットワークソリューション事業の売上増とプロジェクト管理の徹底による利益改善などがあげられます。



当期純利益 585百万円

当期の当期純利益は5億8千5百万円(前期比78.1%増)となりました。
主な要因は、収益増と法定実効税率の変更による影響があった前期に比べ法人税等調整額が減少したことなどによるものです。

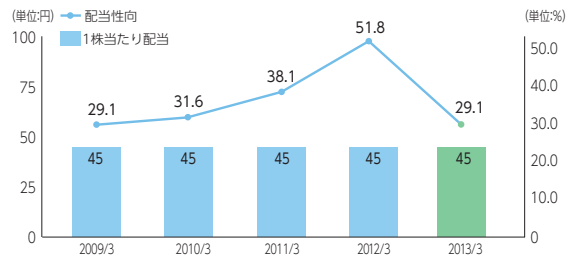


1株当たり配当/配当性向

45円/29.1%

株主の皆様へ利益還元を行うことを経営の最重要課題の一つと位置づけ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当期末の配当につきましても、前期と同額の1株につき45円の配当を決定いたしました。今後も安定した配当を継続できるような堅実な経営に努めてまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：千円）

科 目	当 期 (平成25年3月31日現在)	前 期 (平成24年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,682,404	8,726,091
固定資産	3,059,294	2,382,647
有形固定資産	415,674	247,836
無形固定資産	213,054	258,322
投資その他の資産	2,430,565	1,876,487
資産合計	11,741,699	11,108,738
負債の部		
流動負債	2,159,944	2,227,375
固定負債	2,651,939	2,616,932
負債合計	4,811,884	4,844,307
純資産の部		
株主資本	6,734,333	6,318,795
資本金	653,352	653,352
資本剰余金	488,675	488,675
利益剰余金	6,818,669	6,403,131
自己株式	△1,226,363	△1,226,363
その他の包括利益累計額	195,481	△54,364
その他有価証券評価差額金	195,481	△54,364
純資産合計	6,929,814	6,264,430
負債純資産合計	11,741,699	11,108,738

連結損益計算書（要約）

（単位：千円）

科 目	当 期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前 期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	15,531,922	14,824,055
売上原価	12,696,796	12,188,903
売上総利益	2,835,125	2,635,151
販売費及び一般管理費	1,823,296	1,764,019
営業利益	1,011,829	871,132
営業外収益	87,731	35,099
営業外費用	9,160	6,899
経常利益	1,090,400	899,332
特別利益	—	101
特別損失	130,326	63,693
税金等調整前当期純利益	960,073	835,741
法人税、住民税及び事業税	369,014	411,197
法人税等調整額	5,169	95,609
少数株主損益調整前当期純利益	585,889	328,934
当期純利益	585,889	328,934

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：千円）

科 目	当 期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前 期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	740,049	957,908
投資活動によるキャッシュ・フロー	△685,035	△148,229
財務活動によるキャッシュ・フロー	△176,167	△176,866
現金及び現金同等物の増減額	△121,153	632,812
現金及び現金同等物の期首残高	5,492,618	4,859,806
現金及び現金同等物の期末残高	5,371,465	5,492,618

「第3回スマートフォン&モバイルEXPO(春)」に出展いたしました。

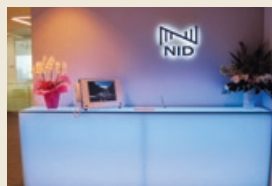
当社は、5月8日(水)～5月10日(金)の3日間、東京ビッグサイトにおいて開催されました「第3回スマートフォン&モバイルEXPO(春)」に出展いたしました。スマートTVの実機とリモコンアプリケーション、「VALIBO(バリボ)」や「Nstylist(Nスタイリスト)」といった、オリジナリティ溢れる当社サービスを紹介し、来場者の注目を集めました。



本社を晴海に移転しました。

当社は、昨年8月に中央区の「晴海アイランドトリトンスクエア」に移転しました。4事業所を1つに集約することで、業務効率・生産性の向上、コミュニケーションの迅速化等の移転の効果があらわれています。

また、新設したクリーンルームは、プロジェクトごとの専用とすることで、情報セキュリティを強化し、顧客満足度の向上を実現します。



会社概要 (2013年3月31日現在)

社 名 株式会社エヌアイデイ
英 社 名 (Nippon Information Development Co., Ltd.)
所 在 地 〒104-6029
(本 社) 東京都中央区晴海 1-8-10
晴海アイランドトリトンスクエア X棟 29階
TEL:03-6221-6811 (代)
FAX:03-6221-6812
設 立 1967年(昭和42年)5月
資 本 金 6億5,335万円
役 員 取締役会長 小 森 孝 一
(2013年6月26日現在) 代表取締役社長 鈴 木 清 司
代表取締役専務 小 森 俊太郎
常 務 取 締 役 馬 場 常 雄
取 締 役 北 雅 昭
取 締 役 田 辺 学
取 締 役 下 山 和 郎
取 締 役 盛 満 敏 昭
取 締 役 石 井 廣
常 勤 監 査 役 千 保 郁 夫
監 査 役 菅 井 源太郎
監 査 役 濱 田 清

社 員 数 単体937名 連結1,417名
事 業 内 容 システム開発事業
通信システム開発
情報システム開発
情報処理サービス事業
ネットワークソリューション
データエントリー
その他

関 連 会 社 (株)NID・IS
(株)NID 東北
(株)NID・IE

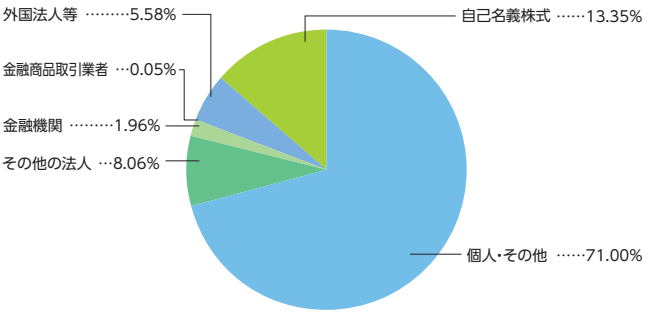
主要取引銀行 三菱東京UFJ銀行
みずほ銀行
りそな銀行
三井住友銀行
三菱UFJ信託銀行
千葉銀行
佐原信用金庫

株式の状況 (2013年3月31日現在)

(1)発行可能株式総数 17,479,320株
(2)発行済株式の総数 4,369,830株
(3)株主数 559名
(4)大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数 (株)	出資比率 (%)
小森 俊太郎	627,060	14.34
株式会社エヌアイデイ	584,237	13.36
小森 孝一	547,982	12.54
エヌアイデイ従業員持株会	370,196	8.47
有限会社クリエートトニーワン	233,700	5.34
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	162,500	3.71
小澤 忍	147,732	3.38
一般財団法人 小森文化財団	100,000	2.28
鈴木 清司	99,292	2.27
竹田 和平	85,200	1.94

所有者別株式分布状況



株 主 メ モ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.nid.co.jp/kessan.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 エヌアイディ

〒104-6029 東京都中央区晴海 1-8-10
晴海アイランドトリトンスクエア X棟 29階
TEL:03-6221-6811 (代) FAX:03-6221-6812

<http://www.nid.co.jp>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2349

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjf.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media (エー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900 (平日 10:00～17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。